

日本学術会議
自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会（第 25 期 第 9 回）
議事要旨

1. 日 時 令和 5 年 3 月 13 日(月) 10 : 00～12 : 00
2. 会 場 オンライン開催 (Zoom)
3. 出 席 永井、鎌田、家田、大倉、尾崎、水野、向殿、佐倉、西條、遠藤、宮崎、柴山、松宮、
須田、唐沢、藤井、渡辺、有本、和田、澁澤、中野
参考人 越塚

(敬称略)

4. 資 料

資料 1 : 第 8 回議事要旨 (案)

資料 2 : データ基盤とモビリティ基盤 (越塚登参考人)

資料 3 : 提言案

資料 4 : 学術フォーラム企画案

参考資料 : 第 8 回議事メモ (非公開)

議 題

1) 前回議事要旨確認

永井委員長から説明があり、確認された。関連して、菱田副会長との面談内容、今後の提言発出・学術フォーラム実施スケジュール等が確認された。

2) 話題提供 : 次世代モビリティとデジタルプラットフォーム

越塚登参考人より、資料に基づいて講演が行われたのち、意見交換が行われた。今後の SIP 第 3 期における省庁連携及びデータ連携の進め方、倫理検討の重要性、環境問題対応における欧米の違い、データの扱い方法に対する理念、情報保護の脆弱性、デジタル庁への期待などについて議論が行われた。また、サイバー空間で制御しにくいものとして人間が挙げられ、国における文化や政府への信頼度の違い、IT のみをビジネスにする難しさ、道路交通法等の法規に残る曖昧さなどについて議論がなされた。

3) 提言について

永井委員長より、提言の申し出は 1 月末に提出し、助言が戻ってきたこと、3 月末までに分科会を開催し、4 月いっぱい最終案をまとめる予定であることが報告された。システムの運用責任や法規・ルール明確化をすべき、提言の時間軸を決めるべき等の意見が出された。提言については、企画分科会で修正を加え、課題別委員会委員に確認の上、対応委員会へ提出していく流れが承認された。

4) 学術フォーラムについて

永井委員長から学術フォーラムのプログラム案が提示された。対話型にしたほうが良い、交通弱者も扱ってほしいなどの意見が出された。詳細案は企画分科会で検討して進めることが承認された。

以上（中野記）